

各位

会社名 プレミアアンチエイジング株式会社  
代表者名 代表取締役社長 松浦 清  
(コード番号: 4934 東証グロース)  
問合せ先 執行役員 コーポレートコミュニケーション本部長  
上 原 祐 香  
(TEL. 03-3502-2020)

## 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2026年6月12日開催の取締役会において、下記のとおり、2026年7月期(2025年8月1日~2026年7月31日)の通期連結業績予想を修正することといたしましたので、お知らせいたします。

## 記

## 1. 2026年7月期通期連結業績予想の修正(2025年8月1日~2026年7月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2025年9月11日)	百万円 16,500	百万円 300	百万円 300	百万円 300	円 銭 34.40
今回発表予想(B)	13,500	300	300	300	34.40
増減額(B-A)	△3,000	0	0	0	
増減率(%)	△18.2	0.0	0.0	0.0	
ご参考: 前期実績 (2025年7月期)	16,160	617	599	471	54.10

## 2. 修正理由

2026年7月期第3四半期連結累計期間においては、当社で行っているアンチエイジング事業について、新規獲得の回復に時間を要している通信販売の売上が計画を下回ったことに加え、子会社の株式会社ベネクスを通じて行っているリカバリー事業の売上もECモールを始めとする競争激化の影響を受け計画を下回ったことから、全社売上高は計画を下回る着地となりました。

一方利益面では、リカバリー事業において、ブランド認知向上やリカバリーの啓発活動に係る広告宣伝投資を積極的に推進したものの、アンチエイジング事業においては、新規獲得の広告効率が十分には改善しなかったことから広告宣伝費を中心とした販売費が計画を下回ったことに加え、コスト構造改革の推進により人件費や業務委託費等の固定費の削減が計画を上回って進捗しました。その結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は計画を上回る結果となりました。

通期の売上予想に関しましては、リカバリー市場の拡大に伴い、リカバリー事業の堅調な販売は百貨店等のオ

フライン・チャネルを中心に継続すると見込むものの、競争激化の影響を受け、EC モールを始めとするオンライン・チャネルの販売は当初計画を下回ると見込んでいます。またアンチエイジング事業を取り巻く事業環境は依然として厳しく、通信販売及び卸売販売に加え、中国市場についても慎重な見方を継続しており、アンチエイジング事業の売上も当初計画を下回る見込みです。

利益面に関しましては、売上高の減少に加え、第4四半期には、アンチエイジング事業においては、新たな新規獲得手法への挑戦を継続するとともに、デュオからの新ラインである落とす美容液「デュオ クレンズセラム ピール&ブースト」やデュオからの新商品等への広告・販促投資を予定しております。加えてリカバリー事業につきましても、ベネクスブランドの認知を高め、更なる売上成長を促すための積極的なマーケティング投資を計画しております。このため営業利益は、第3四半期連結累計期間の実績 742 百万円から減少し、当初計画通りの水準で着地する見通しです。

以上の状況から、2026 年7月期通期連結業績予想を上記の通り修正いたします。

(注)上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。

以上